

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401028		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム慈幸苑		
所在地	熊本県玉名市横島町横島2493番地1		
自己評価作成日	H28.10.17	評価結果市町村受理日	平成28年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれ、リビング・居室より有明海、雲仙を一望でき、雲仙に沈む夕日の美しさは格別である。
 ご利用者・ご家族・職員をひとつの家族と捉え、職員一同理念に基づいた共通意識の下、お一人お一人の残された能力を発揮して頂く支援が定着しており様々な場面で日々活躍される姿がある。
 ご利用者の“こうしたい”、“ああしたい”との思いにも柔軟に対応し、沢山の笑顔を頂いている。
 季節ごとの外出行事も多く、法人の協力を得、伝統行事、季節行事へ参加し、ご利用者の“今”を大切に、安心して暮らして頂けるホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所当時から理念に日々真剣に向き合い、入居者の残存機能を最大限に引き出しながら、不足を補いホームの一員として生活への自信と喜びを提供することに徹している。日中は全員が布のパンツで軽快に過ごし、夜間帯の薬に頼らない支援、食事の際に必要なによってはエプロンを使用するものの、“早くから付けない”“長く付けない”を合言葉に対応する姿勢はそのどれもが人の尊厳に繋がるものである。晴れた日には庭で風になびく多数の布のパンツがそれらを物語り、すがすがしい気持ちにさえる。民家には遠いものの、園児の声や地域、その先の海を一望する環境が入居者の生活をより豊かにしている。更に本年度は外出へもこだわりを持って取り組んでおり、今後の展望が大いに期待されることである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念の掲示を行い、職員全員が関わる日誌への貼付もしている。年度初回の推進会議でも理念を伝えている。	開所時からの理念をケアの原点として、機会あるごとに振り返りの場を設けている。見直しについても「このままでいいのではないか？」というのが全職員の共通の思いであり、ホームの確固たる指針となっている。入居者との日々の関わりの中から、言葉に出ない声を聞くことを心情としながら入居者と向き合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元商店での買い物、デイサービスご利用の知人の方々との交流の支援ができています。	地域行事(花火大会・文化祭)への参加は恒例となり、法人デイサービスとの合同行事や普段の交流も継続されている。眼下から聞こえる幼稚園児の元気な歌声を聞きながら、地域を一望するリビングで常に繋がりを感じ、入居者と職員の生活が展開されている。本年度は“外出”に力を入れており、「新聞を見てから出かける」「思いついたら出かける」を合言葉に地域の中に更に出ていきたい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、小中学校の認知症サポーター養成講座へ行政より依頼があり、協力しており貢献できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の生活の様子等報告し、委員さん方よりご意見を頂きサービス向上に努めている。	2ヶ月ごとの開催が確立しており、行政や地域代表者・家族が参加し、法人内にある地域交流センターを会場として開催している。花火大会への外出について、高齢になっても夜間外出の機会は心弾むものであるし、是非続けてもらいたいとの声も上がっている。参加者からの要望は特に出されていないが、管理者は女性からの意見も求めたいとして参加の呼びかけを模索している。	現在、道を隔てた母体施設で行われている会議を、時にはホームに会場を移すことで入居者の現状把握や意見の拡充に繋がり、更に活発な会議になると思われる。また、女性の視点からもホームを見てもらいたいとする思いを発信し、実現に向けた取組を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ毎回担当者様の参加を頂き、現状報告を行い、相談・助言を頂くことができている。	行政からの運営推進会議への参加により、ホームの現状を伝えながら相談事に応じてもらうなど友好的関係にある。管理者は必要に応じて電話や直接役所を訪れ、適宜アドバイスや指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の勉強会に加え、“鍵なし、眠剤なし、抑制なし”との法人の方針が周知徹底できている。	普段から些細な事でもホーム全体で話し合う体制が確立している。職員間の不和や個々のストレスが入居者に及ぼす影響についても検討し、話し合いの中から風通しの良いホーム作りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会への参加や、職員間の情報共有が徹底しており、虐待が起こらない体制ができている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加や、資料の準備ができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類に目を通して頂きながら説明、納得して頂き、サービス開始へ繋げている。また、不明な点や疑問点についても問い合わせを頂くよう声かけしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や面会の折にご意見等頂き、職員間で話し合い、また、法人からも助言頂きよりよい苑の運営へ繋げている。	運営推進会議や年3回の家族会・面会時など、家族と直接顔を合わせ、入居者の現状を伝えながら意見の引き出しに努めている。職員は家族が訪れやすいホーム環境を整え、出された意見を全員で共有しながら早急な対応を心がけている。入居者の中にははっきりと自身の要望を口にされる方もおられ、馴染みの菓子を皆に振る舞いたいとする強い思いに遠方での菓子購入が実現している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議の開催や、日々の業務の中で話し合い、意見を反映させている。	管理者は普段から職員同士のコミュニケーションを図り、何かあれば話し合いの場を設け解決への取り組みを実現している。自ら意見を出す事の少ない若い職員には、同世代の職員との会話で思いを拾うなど、一人ひとりの意見を重視し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休、自己都合による勤務交代にもスタッフ間で柔軟な対応ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の開催、施設外研修を行っている。また、介護技術チェックリストにて質の向上へ繋がる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム支部協議会へ参加し、他施設との交流や意見交換ができておりサービス向上に繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問を行い、本人や家族の思いを聞き、不安除去を行い、寄り添うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問を行い、ご家族の意向に沿った支援を行い、信頼感を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向、思いを十分把握し、必要とされている支援ができるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人・ご家族・職員がひとつの家族と考えており、日々、大家族で支え合いながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も含めた“大家族”グループホーム慈幸苑と捉えており、ご家族とともにご本人の今を大切に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人のデイご利用のご友人への面会、特養入所者の知人への面会にて交流を図っている。また、地域に住むご友人のホームへの面会もある。	入居者にとって入居前の生活と合わせ、ホームでの日々もまた、新たな関係性からスタートした馴染みの暮らしである。その中で昔話に花を咲かせる小学校時代からの幼なじみである入居者や、若かりしころの自分の仕事に誇りをもち、思い出話をされる方など職員は、個々のこれまでを支えながら、こだわりの習慣や趣味の時間も大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時は手を取り合い、助け合われる姿も見られる。リビングでは座る位置を工夫し、会話の仲介を行い、一人ひとりが周囲を見渡して顔が見えるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後も訪問し、会話の時間など持つように努める。また、退所された後も来苑される事もあるため利用者様を中心に、家族との会話の時間を持つなどし努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様がホームでどのような生活を望まれているのか、また、どのような暮らしを好まれているのかなど、会話や行動から気持ちを把握し、スタッフ間でも情報共有し入居者様の気持ちに沿った支援を行っている。	職員は入居者との会話や行動から生活歴を更に掘り下げ、今も出来ることはないか？検討しながら可能な支援をプランにあげている。この夏には浴衣を着て祭りに参加し、入居者の笑顔が職員の喜びとなるなど、個々の思いに応えた支援が出来ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問でご利用者様の生活歴などを把握し、馴染みの暮らし方などの情報を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日々の暮らしを詳細に記録し、本人様の生活のリズムを把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間では、ケアプラン担当者は状況をみんなで把握できるよう、必要時にホーム会議を実施し、入居者様の問題点などを提起し、現状の把握に努め支援している。	開所時から毎月の個人記録の中にプランをとり込み、並行して支援状況が確認できるようにしている。新たな入居者へ先ずは、人や場所、物など馴染みの関係作りに努め、安心して生活できる環境を提供することなどを掲げ、定期的な評価により内容を検討している。計画作成担当者は面会の折などに、わかりやすくプラン内容を説明し、更に家族の意見を求めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、入浴時、夜間帯など様子をケース記録に詳細に残し情報を共有できるようにし、日々のケアに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊などの申し出にも対応し、その時々を大事にする支援を行っている。また、入居者様の体調等を見ながら、外出行事など法人の協力を得ながら対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元小中学生との交流もあり、当施設の行事には地域の各団体のボランティア参加も多数あり支援に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携も確立しており月2回の嘱託医の往診もある。急変時その都度対応できる体制がある。専門医の受診が必要な場合、ご家族の都合がつかないときは苑にて対応できる体制をとっている。	家族の了解のもと嘱託医による月2回の往診や急変時の対応がとられている。また、専門医については家族にお願いしているが、困難な場合はホームでも柔軟に応じている。職員は日頃から健康面についても家族へ報告しながら、気になることがあれば相談に応じて適切な医療支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である特別養護老人ホームの看護師による医療連携が整っており、日常の変化や異常時に素早い対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合、認知症の進行するケースがあり、ご本人の気持ち、ご家族の気持ちを踏まえ、スタッフが病院へ出向き馴染みの顔を見せることもある。病院関係者と情報交換を密に行い、早期の退院へ繋がるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの文書にご記入頂き、ご本人の状況の応じてご家族と話し合いを持ちながら、ご本人・家族が望まれる最期を迎えられるよう取り組んでいる。	重度化・終末期については、利用開始時にホームに出来る支援について説明を行い、看取りに関する文書に意向などの記入を受けている。今年度、医師や家族の協力のもと、ホームで安らかな最終を迎えられた事例がある。日頃から一人一人に寄り添い、本人の状態を充分把握している職員によって早めに家族への連絡が行われ、最期の時間を迎えられたことに家族から感謝の言葉が伝えられている。	ホームの経年と共に入居者の高齢化も進んでおり、今後も本人・家族に慈幸苑に出来る最良の時間を提供していきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じ、連絡・報告の徹底が出来ており医療連携体制がある。勉強会において急変時の対応について習得している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・避難訓練等を消防署立会いの下、安全に訓練できるように年2回実施している。運営推進会議のメンバーである該当行政区の区長さんにも避難訓練に参加して頂き、地元の消防団住民の方々へも、協力頂くようにしている。	消防署や防災業者にも参加協力を得た防災・避難訓練を年2回行っている。(今年は5月と11月予定)行政区長の訓練への参加や地元消防団との協力体制が図られていることは心強く、運営推進会議でも安全管理についてホームの取り組みが報告されている。毎朝ホーム周辺の可燃物や異変の確認をはじめ、安全管理に努めており、災害備蓄も行っている。	今回の熊本地震をはじめ、台風や土砂崩れなど予測不能な自然災害が各地で発生している。今後もあらゆる災害について想定をしながら入居者の安全確保に努めていかれることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重し、各入居者様に合わせた声かけを行っている。また、排泄の誘導は他者に分からないように行っている。失礼のないように気配りを行っている。	入居者を知りその方に合った対応を全職員が共有し、ホームで安心して過ごしてもらえるように努めている。排泄の失敗や食事中のこぼしなどにも、その場の雰囲気や様本人へのさりげないサポートを心がけている。食事の後、これまでの人生の体験談を繰り返し話される入居者がおられたが、職員は話し相手の方へそっと椅子を向け話しやすい空間を作っていた。本人に限らず周囲への配慮ある対応が、ホームへの信頼につながっているものと思われた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が希望を表現しやすいように、まづお尋ねし、本人様が答えやすいように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調や気分・状況を見て声かけを行う。また、その日はどのように過ごされたのかなど、入居者様の気持ちに沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様とともに季節に合った服選びを行っている。理髪では、地域の美容院など定期的に来苑される理容サービスをご利用して頂いている。行事の際は化粧をしていたく事もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々とその日のメニューを決め、入居者の方々の出来られる範囲で作業をしていただくようにしている。また、下膳、台拭きも担って頂き、一緒に食事・片づけを行っている。	あらたまった献立ではなく、希望や差し入れ食材の活用、季節を取り入れながらメニューを決定している。入居者には唐揚げやすき焼きなど肉料理も好評のようである。また、行事や誕生日には盛りつけもひと工夫し豪華な雰囲気でお祝いしている。職員が手際よく楽しそうに調理している姿や、鍋やザルなど使用した調理品がデッキのいつもの位置に天日干しされている光景が印象的であった。訪問当日は家族から差し入れされた地元のトマトをソースにしたハンバーグや柿のデザート的美味しさに、いつもより食が進む入居者もおられた。	地域を見晴らせるリビング食堂での食事は何よりのご馳走となっている。今後も入居者と一緒に食の時間を楽しんでいただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様ひとりひとりの水分補給量を把握し、本人様方のその日の体調などにより調節を行っている。一日に必要な量がトータルで補給できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い歯磨きをしていただいている。気分が向かえず拒否される場合は、タイミングを見計らい、職員を変えるなどして実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ノートを活用し、時間毎にそれとなく移動の声かけをし、トイレでの排泄に繋げる。排泄の曖昧な方のサインも見逃さないように目配りする。RHパンツ、パット外しに支援する。	自立の方のサポートや、定期的にさりげない誘導の声かけを行い日中はトイレでの排泄を支援している。また、職員は気持ちよく使用できるよう清潔な管理を心がけている。失敗に早く気づくことが、その方の尊厳に繋がることであり、職員は表情や動きなどに目を配っている。法人全体でオムツゼロに取り組んでおり、布の下着のみや尿とりパットの併用による排泄支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では食物繊維、海藻類を取り入れた献立を工夫している。適度な運動も行っているが、それでも便秘されるときは、NsやDrに上申し緩下剤を服用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本としては家庭と同じように夜間での入浴を実施しているが、個々の生活習慣もあり、日中での入浴や夕食前入浴とその都度対応している。	月曜から土曜日まで夜間帯で入浴の準備をしており、希望を確認しながら支援し、中には毎日入る方もおられる。拒否の方へは時間に余裕を持ち、早い時間から声をかけたり自身で準備を行ってもらうなど工夫している。浴室は北側に配置されていることから、採光などは充分でないが、外は斜面のため夏場は心配なく窓を開放できる。また、しっかり湯を貼ったつぷりとした湯量、好みの湯加減で職員との会話により楽しい入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室であったり、リビングの和室であったり、とご本人の思うように過ごしてもらっている。冬場は和室にコタツを置いて日中過ごしていただき、夜間就寝時には湯たんぽも使用している。また、体調により午前午後の臥床時間を設けることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や看護師・Drからの注意事項等スタッフ全員で理解している。誤薬がないよう確認して服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生花を習っておられた方には苑庭の草花を利用し生けていただいている。毎日お経を唱える習慣があった人には苑の仏壇にお経を唱えていただき、これまでの生活習慣の継続につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節ごとのお花見実施。春には桜や藤、夏には菖蒲の花、花火と楽しんでもらっている。年に1回ではあるが家族との日帰り旅行を行っている。お盆、お正月は家族の協力でご自宅へ外出されている。	計画的な外出支援よりもその日の入居者の一言や、家族・交流のある併設デイサービスの利用者などの情報を大切に取り組んでいる。花見外出(桜・菖蒲・ふじ・紫陽花・コスモス・彼岸花・菊など)は、季節を感じる機会でもあり、車を使ったり近隣・地域など開花を見計らって出かけている。今年夏には夜空に咲く、10,001発の玉名花火見物にも出かけている。また、1日旅行や盆・正月の帰省など家族の協力が得られている。	1日旅行や盆・正月の帰省など家族の協力により支援されている。今後も開所より継続されている「今日はどこか行きたかね〜！」入居者の言葉を大切にしたい。外出支援に取り組んでいきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持しておられる方が一人居られる。買いたいものがあるときはスタッフとともに買い物に外出される。また、頼まれるときもある。福祉タクシーを使用されての買い物への外出支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の場合、環境を整え、ゆっくりと会話してもらっている。手紙を書かれたり、届いたり等の支援は出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂等は日当たりもよく、外観の眺めもよくゆっくりと食事が楽しめる。玄関や廊下には旅行や家族と楽しんだ行事の写真を貼っている。仏壇があり、毎日仏様に手を合わせておられる。	ホーム内は絵手紙をはじめコメントを添えた外出時やイベント時の写真は、家族や来訪者にも楽しみとなっている。庭先や散歩で摘んだ草花は入居者にとってより身近であり季節に溢れ、畳の間の仏壇やリビングなどに生けられている。食事やテレビ視聴などで集うリビングは自然の風を入れながら、季節や入居者、天候に応じた室温管理が行われている。また、支える職員自身が一人ひとりにとって居心地のよい環境となるよう努めている。	ホーム内の環境整備への取り組みは、本人に限らず家族にとっても安心するところとなっている。今後も入居者や職員の特技を活かした掲示物をはじめ、近隣を一望できるホームで居心地のよい時間を提供していきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席のほかにTVの前にソファ、テーブルを配置し気の合った友達、同級生と会話を楽しんでいる。思い思いの場所に移動できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具を持ち込まれている方や、家族からの絵手紙、ひ孫の写真を飾られ、居場所作りに繋がっている。	入居時に居室への持ち込みの品について説明をする際は、わかりやすいよう他の部屋を案内している。どの部屋も眺めの良さから本人・家族も安心の言葉を口にされるようである。職員もそれに応えるべく日々の掃除や換気・身体状況に応じた物品の配置をはじめ、必要な品や衣類の管理など家族と協力しながら環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、居室の表れを利用し、戸惑うこと少なく移動できられるよう支援している。		